



# 生涯学習センターの



# 愛称を募集します

## 1 趣旨

本町は、平成16年2月に「生涯学習のまち宣言」を行い、知識・教養に関する学習活動や文化・芸術活動、スポーツ活動等を通して、住民が活力と生きがいのある豊かな生活をおくるために、住民と行政が一体となり生涯学習のまちづくりに取り組んでいます。

生涯学習センターは、中央公民館の老朽化と町立図書館のスペース不足を解消するために、役場西側に建設する新しい生涯学習の拠点施設です。本施設は図書館や公民館、文化ホール等の機能を兼ね備えており、平成24年度からの供用開始を予定しています。

多くの町民が集い、町民に愛され親しんでいただける愛称を広く募集します。

2 応募期間 10月22日(金)まで

3 応募資格 どなたでも(町民以外の方でも可)

4 応募規定 ① 応募作品は、自作で未発表のものに限ります。  
② 一人につき、何点でも応募可能です。

## 5 応募方法

① 応募は、応募用紙またはA4白紙用紙を使用し、次に掲げる事項を明記してください。

「愛称」、「愛称の解説」、「郵便番号」、「住所」、  
「氏名(ふりがな)」、「年齢」、「性別」、「電話番号」

② 持参または封書による郵便、FAX、Eメールのいずれかで応募してください。

※ 応募用紙は町ホームページからダウンロードできます。

6 賞 賞状及び副賞3万円

7 結果発表 入賞者に直接通知します。

8 その他 詳細については町ホームページでご確認ください。

## 9 応募・お問い合わせ先

美浜町生涯学習課内 生涯学習センター愛称募集係

〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市25-25

☎0770-32-6709 / FAX 0770-32-9032

Eメール: syougai-gakusyu@town.fukui-mihama.lg.jp

町ホームページ: <http://www.town.mihama.fukui.jp/>



● 外観イメージ①(北側より)



● 外観イメージ②(北西方面からの鳥瞰図)



● 内観イメージ(学びのストリート)

## 施設概要

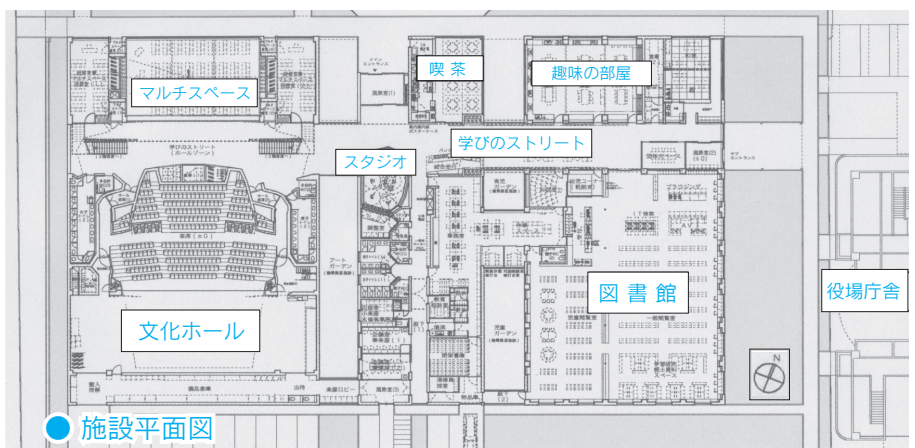
延床面積: 約4,000㎡

敷地面積: 約9,700㎡

構造: 鉄筋コンクリート  
平屋建(一部2階)

ホール客席数: 約500席(固定席)

※ 「マルチスペース」は、リハーサル、講演会、会議、展示、レセプション、踊りの練習等、多目的に利用できます。



● 施設平面図

● 美浜町の夏季平均気温観測記録

(単位：℃)

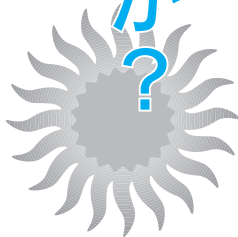
	6月	7月	8月
1位	23.2 (昭和54年)	26.9 (平成6年)	29.2 (平成22年)
2位	22.7 (平成17年)	26.7 (平成14年)	28.7 (昭和60年)
3位	22.3 (昭和59年)	26.6 (平成13年)	28.5 (平成6年)
4位	22.0 (平成2年)	26.6 (平成20年)	27.7 (昭和59年)
5位	22.0 (平成3年)	26.5 (平成12年)	27.5 (平成12年)

象庁は今夏(6月～8月)の日本の平均気温について、統計を開始した1898年以降で最も高かったと発表しました。  
過去の平均気温と比較する平年差でもプラス1.64度と過去最高を記録し、気象庁ではこれを異常気象と考え、専門家による分析検討会を開催しました。  
美浜町では6月と7月の平均気温が、記録の残っている1979年以降でそれぞれ第6位、8月については第1位となりました。

猛

暑

が続くとどうなるのか?



2010夏を振り返って

猛暑の原因

気象庁では、今夏の日本の極端な高温について、次のような見解を出しています。

- ① 北半球中緯度の対流圏の気温が上昇したこと
- ② 太平洋高気圧の勢力が強かったこと
- ③ 冷涼なオホーツク海高気圧の影響をほとんど受けなかったこと

この中で、①の北半球中緯度の対流圏の気温は、長期的に上昇しており、地球温暖化が関係している可能性があるとされています。

環境への影響

今夏日本各地では、真夏日や猛暑日の記録が数多く塗り替えられました。

大阪では、14日連続で猛暑日を記録し、県内でも小浜市で8月の猛暑日数が18日となり、これまでの記録を更新しました。

あらためてそのすごさを感じさせられる今夏の猛暑ですが、アメリカワシントン大学等の研究チームによ

ると、今世紀末には多くの地域で、これまで記録的だった気温が普通に観測されるようになるかと発表しています。

その結果どういことが起きるのでしょうか。研究チームが予測するのは作物の生産性が低下し、食糧危機が深刻化することです。

今夏日本では、野菜の収穫量や乳牛の生産力の低下、サンマの不漁等が報告されています。そのほか三重県の鈴鹿市では、河川の温度上昇が原因と見られる魚の大量死が報告され、研究チームの発表が単なる絵空事ではないことを実感させる出来事が起こっています。



↑三重県鈴鹿市で発生した魚の大量死

猛暑を食い止めるためには

今夏の猛暑の原因は、さまざまな気象条件が絡み合って発生したとされていますが、その根底にはやはり地球温暖化が潜んでいます。地球温暖化を食い止めるためには、二酸化炭素の排出量を減らす必要があります。

これまで環境シリーズでは、家庭や身の回りで二酸化炭素を削減する方法を掲載してきました。

その一部をあらためて紹介します。ぜひ、できることから取り組んでいただき、二酸化炭素の排出量削減にご協力ください。

～ 簡単にできる二酸化炭素削減方法 ～

- 自動車(エコドライブ)では
  - ・走行距離を1km減らす→230g削減
  - ・アイドリングを5分間止める→110g削減
  - ・急加速、急発進を10回止める→140g削減
- 家庭では
  - ・冷房温度を1度上げる(9時間)→30g削減
  - ・シャワーを1分間短縮する→60g削減
  - ・レジ袋1枚を節約する→90g削減

等

※お問い合わせ先

町住民安全課(担当・田村)

☎ 32-6703

# 美浜発電所の状況



今回の報告では、8月19日から9月16日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

町原子力環境安全監視委員会が美浜1号機の継続運転を町長に答申

8月25日に、町役場で第168回美浜町原子力環境安全監視委員会を開催しました。

今回の委員会では、前回開催した委員会に引き続き、6月28日に関西電力(株)が表明した美浜発電所1号機の運転方針(関連記事・広報8・9月号)について協議を行いました。

今回は、有識者から意見を聞くため、大阪大学名誉教授の宮崎慶次氏を招き、「原子力発電所の高経年化対策と長期運転の安全確保」をテーマに講演をいただきました。

宮崎氏は、「日本の原子力発電所の安全確保は世界トップクラスで、特に、耐震性においては世界の模範といつてよい。美浜1号機等の30年を超える高経年化プラントについては、今後も、事業者が適切な点検や取り替え等を実施していくことで、継続運転は可能である。」と話されました。

その後、これまで行ってきた協議を踏まえ、廣瀬副会長が本委員会の意見として「美浜1号機の運転方針については、関西電力(株)が高経年化対策を確実に実行し、今後の保全対

策に万全を期すこと。また、国は関西電力(株)の高経年化対策や3号機事故の再発防止対策等の安全を追求する取り組みを厳格に確認・指導していただくことで、現時点では理解を示したい。ただし、町民の中には、不安を訴える声もあることから、関西電力(株)に、日々の安全・安定運転に努めることは当然として、更に積極的な安全向上策や高経年化対策等への取り組みを分かりやすく町民に説明するよう求めていくとともに、国へも、国民全体の議論として理解が深まるよう求めていただきたい。」と、町長へ答申しました。



↑宮崎氏(大阪大学名誉教授)から説明を受ける委員

美浜発電所消防総合訓練が実施されました

8月18日に、関西電力(株)の美浜発電所構内で平成22年度消防総合訓練が行われました。

この訓練は、構内で火災が発生した際、関西電力(株)で組織する自衛消防隊と消防機関等とが連携し、迅速且つ的確な消防活動にあたることを目的に実施されているもので、今回は、若狭湾沖で震度5弱の地震が発生し、2号機の屋外主変圧器の油火災等が発生したことを想定に訓練が行われました。

当日参加した関西電力(株)の所員をはじめ、敦賀美方消防組合等の関係者は、所内に設置された自衛消防組織本部を中心に、的確な消火活動を展開し、消防体制の再確認と強化を図りました。



↑消火活動にあたる関西電力(株)の自衛消防隊

美浜1号機

定格熱出力一定運転中

(平成21年12月18日)

美浜2号機

第26回定期検査中

(平成22年8月20日～11月中旬予定)

美浜3号機

定格熱出力一定運転中

(平成22年4月16日)